

# みどころガイド

和歌山市北西部の加太に鎮座する淡嶋神社（あわしまじんじゃ）は、日本全国で500ほど存在するアワシマ社の総本社です。病気の回復や安産などを祈る女性の参拝者が多く、特に3月3日の雛流しは遠方からも多くの人を訪れ、春の風物詩となっています。この展覧会では古くから大切にされてきた神社の宝物を展示し、和歌山が全国に誇る淡嶋神社の魅力を紹介します。

## ①淡嶋神社の至宝



だいえんざんなりほしかぶと  
大円山形星 兜 1頭 淡嶋神社蔵  
鎌倉時代 **重要文化財**  
もりよし親のう  
護良親王（1308-35）所用と伝わる  
親王が熊野へ赴く途次に奉納という



こんどうつくりまるさやの た ち  
金銅造丸鞘太刀 1口 淡嶋神社蔵  
南北朝時代 **重要文化財**  
南北朝期頃の製作で柄・鞘ともに金銅装の堅牢な拵



かぐらだいこ  
神楽太鼓 1台 淡嶋神社蔵  
江戸前期



かいじゅうぶどうきょう  
海獣葡萄鏡 1面 淡嶋神社蔵  
8世紀 中国製

## ②淡嶋神社が大切に継承してきた江戸時代の美術品



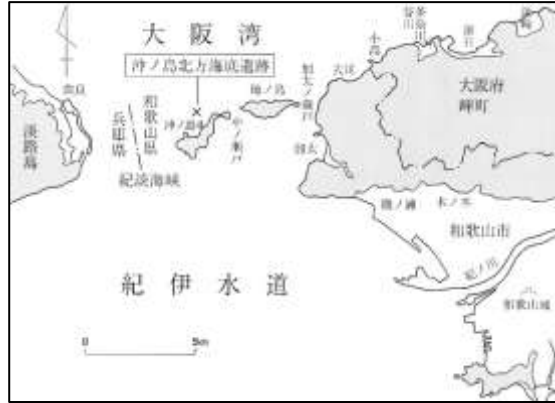
し き はなず す どうきょう ほ ひつ  
四季花図 須藤久甫筆 4面  
和歌山市立博物館蔵（淡嶋神社旧蔵）



なん き おとこやまやき そめつけつるがたふたもの  
南紀男山焼 染付鶴形蓋物 1合  
淡嶋神社蔵

### ③15世紀に友ヶ島沖で沈没した貿易船が積んでいた中国製陶磁器

和歌山市北西の紀淡海峡は、古くから重要な航路に位置し、室町時代には堺と中国との貿易船が行き交っていました。その中には不運にも難破し、積み荷もろとも海に沈没した船もあったことが知られています。江戸時代後期から、地元の漁師は友ヶ島沖の沖ノ島北方海底遺跡周辺の海域で陶磁器を見つけるたびに、海を守る淡嶋神社へ納めてきました。神社ではそれらを大切に保管し、今日まで継承してきました。



せいど ひろくちつぽ しゅかい こ  
青磁広口壺 (酒会壺)

※首里城跡や一乗谷朝倉氏遺跡で類品が出土しているが、割れていないのは大変珍しい



せいど ばん  
青磁盤

※トルコのトップカプ宮殿に類品がある一級品



かい ふちやく した ちゅうごくせいとうじき  
貝が付着した中国製陶磁器